

セミナーのお知らせ

演者

東大医科研 感染・免疫部門ウイルス感染分野 特任准教授

渡辺登喜子 先生

演題

インフルエンザウイルスの病原性発現機構の解析

インフルエンザは毎年冬になると流行し、乳幼児や高齢者を中心に多くの犠牲者を出し、社会的な問題となっている。また、2009年に出現した新型H1N1ウイルスのように、インフルエンザウイルスは数十年に一度世界的大流行（パンデミック）を引き起こし、甚大な被害をもたらす。さらに最近、H5N1 亜型やH7N9 亜型といった鳥インフルエンザウイルスが人に感染して重篤な症状を起こす例が多く報告されており、鳥インフルエンザウイルスによるパンデミックの危険性も懸念されている。我々は、パンデミックインフルエンザウイルスの出現メカニズムや病原性発現機構を解明するべく、これまでのパンデミックを引き起こしたインフルエンザウイルスや、人から分離された鳥インフルエンザウイルスを用いて、研究を進めている。また、我々は、ウイルス増殖メカニズムの全体像を理解するために、インフルエンザウイルスの増殖環において、ウイルス-宿主間の相互作用が果たす役割を明らかにすることを目指している。これらの研究で得られた知見は、インフルエンザウイルスの基礎研究領域において有用な情報であるとともに、効果的なワクチン開発や創薬開発に役立つことが期待される。本セミナーでは、1918年にパンデミックを引き起こしたスペイン風邪ウイルスの病原性発現機構の解析や、インフルエンザウイルスの増殖に関わる宿主因子の同定および機能解析について、得られた知見について紹介する。

日時: **2月12日(木) 午後4時から**

場所: **微研本館1階 微研ホール**

連絡先: 分子ウイルス分野 松浦 (内線 8340)

このセミナーは医学系研究科修士・博士課程の単位認定セミナーです